

・18世紀パリ、ヴェルサイユへの旅・

Early Music Series
古樂の愉しみ

曾根麻矢子

チェンバロ・リサイタル

Mayako Sone Cembalo Recital

百花繚乱・華麗なチェンバロの演奏とお話で
バロック時代にタイムトリップ

Part 1『ヴェルサイユの夜会』

リュリ(ダングルベール編曲):アルミッドのパッサカイユ
ラモー:オペラ「優雅なインドの人々」より
未開人たち、バラのアリア、アフリカ人の奴隸

Part 2『パリのお芝居』

Fクープラン:
カロタンとカロティーヌまたは縁日劇場の芝居
(第19オルドルより)
偉大にして古き吟遊詩人組合の年代記
(第11オルドルより)
フランスのフォリア
(第13オルドルより)

Part 3『音の肖像画』

フォルクレ:ラ・クープラン
クープラン:ラ・フォルクレ
フォルクレ:ラ・ラモー^{しろさま}
ラモー:ラ・フォルクレ

Part 4『クープラン家の年代記』

ルイ・クープラン:パヴァーヌ
フランソワ・クープラン:道化師
アルマン・ルイ・クープラン:道化師

Part 5『天使と悪魔』

マレ:オペラ「アルシッド」より
フォルクレ:「第4組曲」より

2025. 5/31 [土]

2:00PM開演(1:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
A ¥4,000 B ¥3,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売
1/12 [日]

芸術文化センター
チケットオフィス
(10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)
インターネット予約
<https://www.gcenter-hyogo.jp>
※窓口での販売(残席がある場合)は1/13(月・祝)より

芸術文化センター会員
先行予約受付開始
1/10 [金]
※未就学児はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、曲目等が
変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

20
20th anniversary



関西から
文化力
POWER OF CULTURE

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

愛する楽器とつむぐ優雅で華麗なひととき

人気実力共に日本のトップ・チェンバリストとして活躍する、曾根麻矢子さんによるとておきのコンサート。演奏とお話を交えて、魅力あふれるチェンバロの世界へ、みなさまとタイムトリップいたします。

2013~14年にかけ、全3回のシリーズでお届けしたチェンバロ・シリーズ公演でも大好評を博した曾根さん。巨匠故スコット・ロスの遺言でフランスデビューを果たした曾根さんがパリで最も多くを学んだのは、スキップ・センペの元だったそうです。今回のリサイタルでは、得意のフレンチ・バロックの作品を織り交ぜつつ、曾根さんの新たなチェンバロ、その色味から通称“白様”と呼ばれる楽器を用いて、バロック時代のフランスの息吹を感じられる趣向を凝らしたプログラムをお届けします。

「チェンバロを貸与していただけるという理由だけで、パリに移住を決めた」というくらい、楽器へ深い想い入れをお持ち

の曾根さん。新たなパートナーとして得られた“白様”を、曾根さんは「フレンチ・モデルだけれど、バッハやスカルラッティも弾ける音質。広いホールでも客席に音が届く」と絶賛します。特にチェンバロ全体を覆う華やかな装飾を初めてご覧になったときは、「なんて楽しくて幸せなオーラだろう」と無限の可能性を感じられたのだとか。当日は、この幸福感にあふれたチェンバロの魅力を、ぜひあますことなくご堪能ください。

初夏の爽やかな気候に相応しい、貴族も楽しんだ優雅なサロンで過ごすかのようなひととき。華麗で奥深いチェンバロの魅力を、ぜひ五感でお楽しみください。

曾根麻矢子（チェンバロ） Mayako Sone, Cembalo

桐朋学園大学附属高校ピアノ科卒業。高校在学中にチェンバロと出会い、故鍋島元子に師事。1986年ブルージュ国際チェンバロ・コンクールに入賞。その後渡欧を重ね、同コンクールの審査員であった故スコット・ロスに指導を受ける。ロスの夭逝後、彼の衣鉢を継ぐ奏者としてエラート・レーベルのプロデューサーに認められ、1991年に同レーベル初の日本人アーティストとしてCDデビューを果たした。以後イスラエル室内オーケストラのツアーや録音に専属チェンバリストとして参加するほか、フランスおよびイタリア等のフェスティバル参加、現代舞踊家とのコラボレーションなど国際的に活躍。日本国内でもリサイタル、室内楽と積極的な音楽活動を展開するとともにテレビ、ラジオへの出演、「いきなりパリジェンヌ」（小学館）の刊行など多才ぶりを見せている。

録音活動も活発に行い、エイベックス・クラシックスよりCDを多数リリースしている。1996年「第6回出光音楽賞」をチェンバロ奏者として初めて受賞。1997年飛騨古川音楽大賞奨励賞を受賞。

2018年、フランスでおこなわれたスカルラッティのソナタ全555曲を演奏するフェスティバル「スカルラッティ555」に出演。2019年、フランスで開催された『スコット・ロス30周年リサイタル』に出演。2021年春より、HAKUJU HALLを舞台に、バッハの主要作品を数年間にわたって演奏するコンサートシリーズをスタートさせた。2022年新シリーズ『サロンで聴くフランス貴族の音楽』を企画している。

使用楽器 チェンバロ製作の巨匠David Ley製作のフレンチ・モデル 通称「白様」

18世紀の製作家N.ブランシェおよびデュモンのオリジナル楽器をベースとし、その上で曾根さんの理想の音を求めて独自に設計されている。色合いや脚・譜面台の形、金箔等のスタイルは、名工F.E.ブランシェ1733年のチェンバロがモデル。楽器の絵は、フランソワ・ブーシエ、アントワーヌ・ヴァトー、クリストフ・ユエなど18世紀のスタイルを元にしたオリジナルモチーフである。曾根さんの以前の楽器が黒地に金箔のシノワズリだったため、対照的なこの楽器はいつしか「白様」と呼ばれるようになった。

